

# 佐世保市地方創生推進協議会 平成29年度第2回協議会

日時：2018/3/28 15:30~17:30

場所：佐世保市役所 4階 全員協議会室

## 1. 開会

### 【事務局】

- ・事務局あいさつ

## 2. 市長挨拶

### 【市長】

- ・市長挨拶

## 3. 議題

### 【事務局】

佐世保市の地方創生の進捗状況について

### 【林委員】

- 資料の作り方について、西暦と和暦が混在している、統一していないと比較しづらい。

### 【事務局】

- おっしゃる通り、比較する上で統一していないと見づらい部分があったと思う。今後対応したい。

～事例発表（民間）～

### 【池田委員】

- 3月17、18日の2日間実施した艦隊これくしょんのイベントについて紹介する。活性化推進協議会内の4つの部会は、若い人達に参加してほしいという事で、地方創生プロジェクトチームを立ち上げ、本委員の活躍により、このイベントが成立した。イベントは2年半位前から観光客の増加を第一に考えて、計画を始めた。茨城県大洗町のアニメを活用したまちおこしの視察等を経て、艦隊これくしょんとのコラボレーションを提案した。当初なかなか話が進まない中、一般社団法人アニメツーリズム協会より、全国から立候補がある中で佐世保がアニメの聖地としての認定を受ける事ができた。これを機に委員が一体となり、誘致に向けた活動が積極的となった。このような中、著作権を持つアニメのマネージャーと接触する事ができ、様々な苦勞を乗り越え今回のイベントを開催することができた。資料のとおり、1日目が6,000人、2日目が3,500人と、計約1万人が参加し大成功に終わった。それも9割近い人が県外から、特に関東や福岡からの参加者。癒しを求める方がたくさんいるということが理解できた。年齢は30、40歳代という中堅どころが多く参加しておられる。JRや高速バス等も大変その日は数字がとれた。当初の目的は鎮守府を中心とした佐世保、そして県北の知名度アップと同時に将来の観光を担う人材の育成であったが、それで終わらせないため、現在委員会を立ち上げ、反省会とともに次回の催しについて検討をしている。実施にあたって宿泊者の対応など含めて、予算的にはほぼ視察費位。ご協力いただいた皆様には感謝申し上げます。あとについてはお手元に配りました資料をご覧ください。

### 【中島委員】

- 本学では映像機器を使った人材開発における授業をやっている。今回は佐世保市のPR動画を5本作成した。これは社会人基礎力の向上等といったものを可視化しながらやっている事になると思うが、この5本を作るだけに終わっていたのでは意味がない。NIBなどが別の企画に使いたいという話もある。やはり動画が一番効果的だと思う。SNSやYoutube等を利用して広げていきたい。そして英語で作成することが非常に重要。日本語で作っても広がらない。英語だと世界が注目する。次回はそういったものをするよう言っている。また、小学生をメインとしたNIUキッズキャンパスを開催した。将来佐世保市で活躍するであろう小学生を対象に、保護者と一緒に、と銘打って13の講座を設けた。私どもが連携を結んでいる色んな会社、JAL、ヴィファールン、親和銀行、十八銀行など、それぞれの企業がもっているノウハウを小学生にうまく伝えるということをやった。JALの紙飛行機大会、ヴィファールンのサッカー指導、それを保護者と一緒にやった所がよかった。157名の小学生を対象に総勢311名でやった。我々の大学のキャンパス全体を使用して行った

のだが、これは本当に教育における地域貢献や、学生の社会人基礎力の向上に資するものではないかと考える。学生にとって何が一番大事かという、そういった企画をたてる企画力、小学生という低学年をどう扱うか、そこを十分に理解したうえで、佐世保市にその人達が定着して、これからの佐世保市での企画にどう携わることができるか。3点目が広田地区公民館でのファッションショー。これは地元の衣料店と企業が協力して開催し、約200名の参加があった。私自身はファッションショーで地元の人たちが自分達でやろうという気持ちを出してもらう事が一番大事と考える。先ほどの池田委員からもあったが、色んな事をする時に、1万人規模でやらないと意味がない。集客力のないイベントはやらない方がいい。そういった意味でも、広田地区だけでなく佐世保全体を巻き込んだファッションショーなどを企画する必要がある。以上、若者が定着する企画として3つの事をさせていただいた。

#### 【林委員】

- 色んな所で災害が発生している中、十数年前に「災害時一人も見逃さないための運動」というのを民生委員が主体となって起こした。その後平成25年に災害対策基本法ができ、行政が避難行動要支援者名簿を作るようになり、佐世保市が作成した台帳を民生委員がもらうようになった。ここで話したいのは、例えば情報の発信。避難行動要支援者名簿の作成にあたっては、行政が支援が必要と思われる人に通知を出して、支援が必要という事で名前を名簿に出していよいよ問い合わせをした。該当者は12,607名いたのに、返ってきたのは6,431名。約半数しか戻ってこない。自分が何かあった時に助けてもらう、そのような大切な事でも、「はい」とチェックするだけでも、返信がないという現状である。先ほど説明があった空き家バンクや、艦隊これくしょんについても自分は何も知らなかった。周知させることがいかに大変かという事である。今は何でもインターネットをみればいいと言うが、地域に住む高齢者は手紙でも半数しか返ってこない。ここをもっと真剣に考えないと、色んな情報をこれから配信すると思うが、やり方を変えないと誰も知らないままになる。身近な問題でも半数しか返ってこなかった現状を考えなければならない。

～ご意見・感想～

#### 【中島委員】

- 長崎、佐賀県の17の大学、長崎県、佐賀県、長崎経済同友会、佐賀県商工会議所、この産官学が一体となり、九州西部地域関係大学連産官学連携プラットフォームを先日立ち上げた。究極の目的は、それぞれの地域の住民が、安心安全でいつまでもそこに暮らしていきたい、そういう地域を作り上げること。それぞれの大学が持つ資源を持ち寄り、それを高め、そして地域産業をおこし、地域が豊かになることを目指している。この地方創生の話と非常にマッチすると思う。そういった中で、もっと大事にしなければいけないのは行政と大学のつながり。そのために、佐世保市や長崎市といった大学のある市と協定を結びたいと思っている。

#### 【事務局】

- 佐世保市の総合戦略の基本的な考え方は、元気な中心市を目指す、人口の抑制をするダム機能を本市が持つこと。地域そのものが安心安全で必要最小限、それ以上に成長すべきものを兼ね揃えて、地域として継続的な地域社会を作っていくという目的のために、あわせて連携中枢都市圏を作って、その中でそれぞれの役割で何ができるのか、という事を研究している。官と学の連携、地の拠点をお互い持ちながら地域課題を解決していくことが大事。あわせて学生が持つ地域に対するパワーにはとても期待している。これまで長崎国際大学や、県立大学等と包括連携協定を結んできたが、この動きが今後本市だけでなく広域に広がることは我々も求めるところである。今のご意見を踏まえて、何を目的として協定に基づいた活動するのか、十分検討したい。

#### 【林委員】

- この地区にある高校との連携はどうなっているのか。地域の高校生が地域の大学に進学し、地域に残ってほしいと思っているが、そのあたりはどうなっているのか。

#### 【中島委員】

- 高校と大学が連携するのは当然のことで、高大接続あるいは高大連携といって地域の高等学校との連携も進めていかなくてはならないと思っている。しかし、大学は文部科学省の所管であり、高校は県、小中学校は市、というように所管の壁が大きく、県にこの壁を打破できるように、そういう組織や部署を作るよう依頼しているがなかなか実現されない。連携を結ぶ大前提が一緒にやれるということ。それぞれに教育委員会がありなかなか難しいが、中身で連携するという事はやっている。例えば、高等学校の先生に来ていただいて大学の色々な事を知っていただくなど。形の上で、「高等学校と大学が連携を結びました」というのは難しいという事をご理解いただきたい。

【林委員】

- 民生委員は、小学校中学校の運動会、卒業式、入学式には呼ばれるが、目の前の高校からは呼ばれない。みんなで育てるという観念からすればもう少しなんとかならないのか。

【市長】

- それぞれの学校の考えというのもあると思うが、県の教育委員会にも話をした方がいいかもしれない。

【青年会議所 山縣氏（代理出席）】

- 艦隊これくしょんについて、こんなにも多くの人が街に居て、4時間も5時間も並ばれている事に驚いた。佐世保の方は並ぶという事はあまりなく、このようなコアな人達が集まるイベントは面白いと思った。アメリカンフェスティバルもこれに学びながら、今後もお祭りを作っていききたいと思う。

【竹本委員】

- メイン会場としてくっけんひろ場で物販などをおこなった。朝8時位から500人ほど並んでいるというメールがきて驚いた。想像だにできなかった。一番速くはオーストラリアから来られていた。信じられない世界があった。まちとしては宝物がそれだけあるということ。海軍のまち、基地のまちとして佐世保があるわけで、その宝物に改めて気づく大切なイベントになった。出来る協力であれば、今後も様々な事を協力してやっていきたい。艦隊これくしょんではないが、坂道のアポロンやヴィファレン長崎にしても、地域の宝の掘り起しとして、商店街としては全面的にバックアップしている。4月1日に佐世保を舞台とした、こはく、という映画が撮影された。佐世保出身の監督であり、佐世保の様々なところが出てくる。まだまだPR不足ではあるが、今後広がった段階で相乗効果が出てくるのではないかと期待する。

【深堀委員】

- 自分はこの町に生まれ育ち、日頃から安全なまちという認識がある。先ほど、避難行動要支援者の名簿の話で今半数位の方が手をあげている、とのことだった。社会福祉協議会としては貧困問題から高齢者問題など、分野が多岐にわたっていて、かゆいところに手が届かない状況。民生委員児童委員の方とは密接に接しており、いろいろな情報をいただいたり、逆に情報をまちなかに伝えていただくという、車の両輪のような関係。市民のみなさん方が、私と同じ気持ちなのかという気がする。安全なまちといった意味で、特に大きな災害もなく、そういう意味で名簿が出ないのかなと危惧している。

【石田委員】

- 2点話をしたい。1点は、林委員の情報の発信の話だが、対象が1万2千人いるのに半数しか返信がなかったとのこと。必要な情報は繰り返し発信しなければならず、それもわかりやすく、様々な方法で発信する事がよい。SNSや新聞、テレビ、ラジオなど、重層的に発信することが大切と思う。2点目は、艦隊これくしょんの話だが、2日間実際に街中で見ていたが、驚いた。町中いたるところに人が大勢居る。どこから来ているのか疑問に思っていたが、先ほど関東と福岡からが多かったと説明があった。何故そこからの集客につながったのか、もっと分析をする事で今後につながるのではと考える。何にせよ、佐世保には潜在的な魅力がたくさんあるという気がした。

【市長】

- 凱旋記念館でのコンサートは3分で整理券が終わった。SNSというのが非常に強いと感じた。また、避難行動要支援者に関しては、現在半分しか把握出来ていないというのは大変な事と思うが、施設入所という方はどうなっているのか。

【林委員】

- 恐らくそういった方は除外されていると思う。ただ、名簿を見て私達が全く知らない障がいをお持ちの方なども居て、今回確認できた事はありがたい。民生委員としては、これからそういった方を訪問したり、名簿に載っていない方には説明をして、名簿掲載への同意をいただくことが私どもに課された仕事だと思っている。

【市長】

- 障がい者の方であまり知られたくないとか、そういった事もあるのでしょうか。

【林委員】

- それは全くわからない。

#### 【嬉野委員】

- 避難行動要支援者について、災害対策基本法に準じて市町村で名簿を作らなければいけなくなった。その名簿を民生委員さん達、町内会長さん達が説明をしている。町内会としても当然民生委員さん達と協力しながら行っている。名簿掲載への同意をしていない方も町内会にたくさんおられる。避難要支援者とは、指定された避難所まで自力で避難するのが困難な人で、支援してほしいけど、名簿に名前を出せない人もたくさんいる。町内会活動の世話をしている者として、いざというときはその人達と一緒に避難し、支援するシステムを日頃から作っていく必要がある。

#### 【森川委員】

- 長崎国際大学の若者によるまちづくり活動について、民間会社の観点から言うと、商品や製品をどう作るか、そういう点も重要であるし、一方で利用者がどう思っているかという事を考えて行動することも非常に重要。よくプロダクトアウト、マーケットインといわれるがそういった観点からまち、ひとを考えると、まちという観点ではいろいろな器を作ること。これは今、市の方で様々な取組があっているかと思う。一方でひと、という事を考えると、今住んでいる方、またはこれから大きくなる人がどう思うかが大事。そういった意味で小学生を対象としたキッズキャンパスや、これから就職する大学生の方が行ったファッションショー、これらを通じて地元に対する愛着をどれだけ共感する人を増やしていくかが一番大事。器をきちんと作っていく事と、ここに長く住みたいと思う人をどれだけ増やせるか。そういった観点でいくと、大学生によるいろんな活動は、大学生は勿論、小学生にも楽しい思い出として残してもらって、大人になった時にこのまちに住みたいと思う経験を積み重ねていくことが大事。先ほど1万人規模で、と言われました通り、共感する人をどれだけ増やせるか、そのためにはこうしたイベントを地道に行う事が大事なのではないかと思う。

～取組発表（行政）～

#### 【事務局】

- ①クルーズ拠点化を契機とした周流戦略、②九十九島認知度向上、③英語が話せる街 佐世保 について

#### 【竹本委員】

- クルーズ船対策としてWi-Fiをアーケードの中に設置している。外国からお見えになる方は、観光その他の情報をスマホで集められているため、まずWi-Fiを設置した。また、なかなか日本ではぴんとこなかったものが、スマホ決済。我々はいつも現金、海外ではカード決済をおこなうが、クルーズ船でおみえになる方は中国の方が多く、彼らの決済はWe Chat PayやAlipayといって、買い物したらその場ですぐ預金から引き落とされるというやり方。お店側はそのシステムを入れるだけで使用でき、中国では8割9割がそのシステムとなっている。中国からの人が多いとなれば大至急対応しなければならぬ。7月には16万トン級までの船の入港が可能になるので、それまでにはWe Chat PayやAlipayが安心して使えるという体制を作っていきたいと考えている。また、松浦公園に観光バスの駐車場ができる計画もある。松浦公園でバスを降りるとなれば、まちなかをウィンドウショッピングしてもらうチャンスが増える。日本一といわれる1キロのアーケードを歩いていただいて、様々な情報を持って帰って、また来たいまちさせほになるようにしたいと思う。

#### 【中島委員】

- 九十九島の認知度向上について、政策の説明があったが全くその通りだと思う。モンサンミッシェルにしても、ハロン湾にしても、魅力のあるものがそこに入っている。モンサンミッシェルであれば寺院と一体化していて、キリスト教の人は必ず行こうという気になる。日本の四つの湾も、天橋立や立山連峰といった絵の中に特徴のあるものが入ってくる。九十九島の写真を色々見せてもらおうと、湾が非常に綺麗というのはわかるが、それはどこにでもある。湾の中にヨットが浮かんでいる写真があったが、ヨットが浮かぶだけで景観が変わる。あるいは夕日が沈むシーンもよい。そういうシーンを見に来るのかということ。観光客が何を目的に来るのかという事を十分に考えていかないと効果的なものが得られない。ヨットに限れば、湾でヨットレースをやるとかすると、日本各地から人がやってくる。他にもサンセットロードみたいにならずとつなげて、そこでマラソンをすとか。一万人規模の人が集まるようなイベントと、九十九島の湾の美しさをくっつけないと魅力が出てこないと思う。九十九島はすごくきれい。先ほどの説明にもあったように見晴らしのいい所に施設を作るとか、動きがあるものをやっていく。素人考えだが、松浦鉄道を九十九島号に変えて、九十九島の非常にいいところを満載するような列車を走らせる。松浦鉄道は第3セクターの列車としては一番長いという特色がある。列車に興味がある人と九十九島の美しさをくっつけることが出来ないか。他にも、住民が新しい駅舎を作るとか。その駅の目的は何かというと、高等学校や短大等、学生たちが鉄道を待っている間勉強ができるスペースを作る等、その地域が要求するような事を作る。それをSNSやYoutubeで発信することで向こうからやってくるのではないか。せっかく波佐見や有田をもっているのだから、そういう日本遺産や世界遺産を結び付けて九十九島を宣伝する。HTBを利用するのであれば、IRと結びつけないと、HTB単独できている人を九十九島まで誘導してくるのは難しい。また、発信するとすれば外国の人がそれ

を見て、おっと思わないと広がらない。それは絶対に英語で発信しないとイケない。佐世保には見所がたくさんある。それをどうつないでいくかという事を考えていただきたい。

#### 【観光商工部長】

- 世界で最も美しい湾は認定条件が3つある。そのうちの2つがナショナルパークであることと、世界遺産をもつこと。黒島という九十九島の中で最大の島、これが今年の夏、世界遺産への登録が期待されている。天主堂については素晴らしいものがある。韓国で非常に多いカトリック系のお客様もたくさん来られており、まさにこのカトリック教会をキーとして集約を図っていききたい。ソフトの必要性については、食と観光の連携で、カキ喰うカキ祭りとして大きな集客を図っている。今後もこれを更に発展させたいと思っている。JR、MR との連携では、実は福岡、佐世保間を結ぶ「特急みどり」について、「特急九十九島」に出来ないか陳情した経緯もある。1本は実現したが継続的な実施はしていない。九十九島を全てのネーミングにつけるよう努力したい。また、日本遺産、佐世保には三川内焼がある。量産品でないため知名度はいまいちだが、ここにも新たなスポットをあて、さらに広域連携の中で有田、波佐見焼とも連携、差別化をはかりながら佐世保に三川内焼ありというのをPRしていききたい。

## ● 4. 報告

---

#### 【事務局】

平成30年度地方創生関連交付金申請事業について

審議

(異議なし)

## ● 5. 意見交換

---

#### 【市長】

- 折角の機会ですので、全体を通して、ご意見、ご感想、あるいは今後の進め方等について意見交換を行いたいと思います。

#### 【林委員】

- 佐世保市に色んな人が来るよという話だが、私は地元の者がちゃんと地元で居るようにしてほしい。地域の小学生に「あなたの町は何町？」と聞いても知らない。自分の町に魅力を感じない子供達が地元に戻ってくるわけがない。生まれ育った地域をいい町だなと思うようにならないと。町内会が活性化して色々な事業があると、あの頃が懐かしいな、と大学を出てから戻ってくるかもしれない。住んでいる町の名前もわからないような子供達が多くなるとは、なかなか戻ってくることはないと思う。

#### 【東田委員】

- 今のご意見に非常に共感している。高専というのは15歳から5年間の教育をしている。地域の非常に優秀な学生に来ていただいている、とにかく立派な人材に育てるという事が我々のミッション。一方で、大きな反省点であるのだが、外に出ていく学生が現状非常に多い。これについては何とかしたいという強い思いがある。その時に今まさにおっしゃった通りで、この地域からの学生が多いのだが、その学生あるいは親御さんが地域の企業を知らない。それを非常に感じる。非常に優秀な企業、やる気に満ちた企業がたくさんあるにも関わらず、それがちゃんと学生あるいはその家族に伝わっていない。そこをなんとかしないとイケないという事で、私どもが考えているのは、とにかく地域の企業の方に直接学校の中に入ってきていただいて、学生と話す機会をどんどんつくる。佐世保ではこんなすごい事をしている、おもしろい事やっているんだ、そういう気持ちを彼らに持たせたい。地域の学校に地域の方々が入ってきて、熱く直接学生に語っていただきたい。まず私達自身が努力しなければいけないが、是非お願いしたい。

#### 【湯川委員】

- その問題は我々工業系の企業からしてもお願いしたい。佐世保の企業に来ていただきたいと前々から思っているがなかなか実現しない。1つには中央の方の企業はテレビでの宣伝もあって、有名な会社がたくさんある。そういったところは100も1,000も新入社員が入る。そういう中で佐世保の企業が人材を確保するための競争、そういうところが遅れているのではないと思う。問題は色々ある。我々47社、優秀な企業がたくさんあり、何年も前から企業説明会に伺って、

社の魅力を知っていただきたいという事で参加している。しかし佐世保で弱いのは工業系。1つには、造船のまちという事でそこが育ってきたという事がある。我々も何もやっていないわけではなく、高等学校、大学も含めて意見交換会であるとか企業見学会、そういった事もやっている。少しずつ知っていただけるような状況にはなっている。佐世保市、長崎県が地元に残そうということをやっているが、実際は大変である。県の人口もここ40年位で約172万人位だったのが約132万人と40万人程減っている。そうするとスーパーがなくなり、行政サービスも悪くなるという事が目に見えてきている。我々子供達のためにも、みんなで頑張って佐世保がよくなるようにしたい。我々がやれる事はやはり企業が発展し、人をたくさん雇用して波及効果をあげることが大事と考えている。

#### 【市長】

- ふるさと教育が大事だと思う。小学生も当然必要だけど、中学生位でしっかり教育する。教育委員会でも色々取組をしているが、それが十分なのかどうかという事もある。また、先生方が佐世保出身ではない方も結構おられるので、佐世保の事を説明出来ないという事もある。高校の先生になると全県を回るので佐世保の事を知らないという事もある。新任の先生を集めて佐世保の事を教えるという事も過去2、3回実施した。人が集まらなくなった等あって今はやっていないが、そういった事もしっかりやらないといけない。希望する学部や学科がないという事で、外に出る子もいるが、1度は都会で就職しても、将来的に戻って来たいという流れを作ればよい。ふるさと愛を植え付ける必要がある。現在佐世保には新湊ターミナルに移住サポートプラザを作っていて、その利用が結構ある。一昨年までは移住サポートデスクとして庁舎内にあり移住実績が60名だったが、昨年度は170名近くの移住実績があった。そのうち佐世保に関係のある人が7割程度でそういう流れが出来ている。また、戻って来られた方の8割が40歳代以下で、仕事と子供の教育、保育園をワンストップでお世話する必要がある。佐世保は長崎県の中では群を抜いて移住者が多い。こうした積み重ねが大事であり今後も続けていければと思う。

#### 【鴨川委員】

- 佐世保に若い人が増えるためには住みやすく、子育てのしやすい環境が大事。市の活性化を行政中心におこなって、若い人が佐世保に戻ってくるようにする。県内就職率は30%程度となっており、それを少しでもあげたい。連合長崎としては長崎大学と連携して、経済学部を対象に就職した際の働く環境、労働基準法などの内容について寄附講座を行っている。県の最低賃金の引き上げにも入って意見を述べている。長崎県の最低賃金は全国の中で一番下のランクに位置しており、福岡と比べても50円ちょっと、東京とは250円程差がある。そういった環境を少しでも改善し、住みやすい街にするため取り組んでいきたいと思う。

#### 【ながさき西海農協 代理 口石氏】

- 昨年みかんの生産で天皇杯をいただいた。その前の年はみかんの販売額が27億円で、大体平成〇〇年というのと、みかんの販売額が一緒だった。地元にはなかなかなじみがないが、みかんの生産者は300名位いて、場所は針生や宮、早岐が中心である。天皇杯をいただいた昨年の販売額は31億で、今年度は35億近い。一年間で4億程増えている。このような形で販売額を伸ばしており、全国で味っ子、味まるは不足している状況。東京でも千足屋や一流デパートで味っこや出島の華を小売で販売している。誰が買いに来るかという大学生など、みかんの勉強している人がどういふみかんだらうか、という事で買いにくる。東北の中心地である、宮城県の仙台市では東北地区全体の品物を扱っているが、その宮城県の中でも6割位が長崎県産のみかん。また、県内の幼稚園では味っこ、味まるの歌ということで30年程前から歌って販売している。値段が高いので残念ながらあまり浸透していないが、東京など他の所では伸びてきている。後継者もみかんについては出てきている。他の品目等についてもそういった販売があれば後継者が出来てくると思う。地域の活性化に寄与するのは野菜関係であって、特にクルーズ船のお客さんが有田や福岡、長崎の方に行くのではなくて、九十九島とかHTBとか地元の観光にきて、地元産の食材で料理を提供するという事にならないか一緒に検討していただければと思う。佐世保地区のみかんが地元に出るようにしていければと思う。

#### 【松澤委員】

- 県内就職という立場でちょっと発言させていただきたい。新卒者の県内就職率が平成28年度は30.8%、目標値に届いていない。ここ数年全国の経済情勢がよく、こういう時は今までの経験から県内就職率が下がる傾向にある。しかし高卒に関しては、県内就職率が上がっている。大卒、高専の方は県外の企業がいい条件で求人を出しているの外に出るといった状況が続いている。企業説明会、面接会等しているが、参加企業と参加高校生の数がほとんど一緒という、数年前では考えられない状況。各高校でも地元の企業を呼んでの説明会や、3月に大卒の企業説明会をしたが、その前に企業の人事担当を集めてプレゼンのセミナーを実施した。企業の情報発信能力を高めることも必要である。我々が子供時代は、まちなかを歩くと色々な会社や工場があって、この会社が何をしているかというのが目に見えていたが、今はそのような機会がなかなかない。先ほど市長がおっしゃったように、小学校、中学高時代からの地元企業を知る、地元の社会を知るとい



う教育の充実をお願いしたい。もう一つ、先ほどもありましたが、賃金は確かに長崎は低いという事もあるが、賃金だけでなく福利厚生を含めた雇用環境の改善が非常に大きい人材を呼び力になる。厚生労働省の方で優良企業といって、年休の取得等そういう部分を増やした企業を認定する制度がある。県内で初めて佐世保の企業である松島工業が認定を受けた。今まで高卒の求人を出しても見向きもされなかったが、29年度に初めて高卒採用が2名出た。そういう実績もあるので、賃金も大事だが全ての働く環境を整えることが必要だと思う。

#### 【池田委員】

- 地方創生の話聞いていて思うのは、やはり情報の扱い方。情報の発信と同時に、地元の方にきちんと伝えること、SNSを利用して国内外に大きく発信すること、この両方を丁寧にやらないとうまく伝わらないと思う。災害時要支援者の件も仕事が福祉系なので関わっているが、一人暮らしの高齢者が通知をみて内容を理解して何をすべきか考えて返信をするというのはちょっと難しいと思った。丁寧に伝えることが必要。障がいについても、精神障がいや知的障がいの方は難しいのではないかと。障がい福祉課の方と連携をとってきちんと伝えていくといった丁寧さも必要。それ以外に、先ほどから英語の件が出ているが、国外に向けての情報発信については佐世保は非常に有利だと思う。例えば市役所の窓口の方、一般企業や銀行の窓口の方も、英語がある程度話せる方はバッジをつけるとか、そういう統一したようなものがあると佐世保が英語のまちであることが伝わりやすい。また、それぞれの担当部局で情報発信の仕方がばらばらだと思う。それぞれの所が一緒に同じように持っていけば効率的なのではないかと思う事がある。佐世保市は情報だけを扱う課はないのか。Facebook もそれぞれ独自でやっている部署もあればやっていないところもある。統一して佐世保市として情報発信や情報収集をするというような何かがあってもいいのではないかと。

#### 【事務局】

- 情報発信に関しては Facebook、ホームページを一定取りまとめる課はあるが、おっしゃるとおりそれぞれの課で発信しているところもある。ご指摘の点を踏まえて情報発信のやり方、逆に情報の取り方も含めて情報政策課、秘書課の広報係もあるので、今後検討の材料とさせていただければと思う。

#### 【前田委員】

- 先ほど中島委員からお話があったが、大学と行政の連携は非常に大事ですが、そこに民間団体もまぜてほしい。他の場所でも話題となったが、大学というのは我々の感覚からすれば近寄りやすい感じが今でもある。そういう意味で知恵を借りたい、協力してほしいという思いがたくさんある。是非開かれた大学としてPRをいただければありがたい。観光というのは、佐世保にとって目指すべき大事業だと思う。三浦岸壁に次いで浦頭地区においても岸壁の整備により外国人観光客の誘致が多く見込めるという事で大変喜ばしい。また、佐世保市で検討を進めている、俵ヶ浦半島の開発については地元企業や団体が様々な形で参加できるような取組を検討してほしい。昨日商工会議所青年部も市長へ提言したが、非常に評価をしている。まだアイデアとしてだけ取り上げているが、俵ヶ浦半島の開発の1つで桜の巨木の移植をしてはどうか。桜というのは春だけでなく秋冬に咲くものもある。そういうものを上手に配置することで、計画されているつくも苑跡地の観光公園周辺が非常に綺麗になると思う。観光スポットとしてよくなるのではないかと。日本桜の会と交渉もできるので色々お話をしながら進めていきたい。佐世保商工会議所では外国人の方を対象に、英語が堪能な県立大学生の協力を得て、各事業所が受け入れ環境を整え広報活動の支援をする事業を展開している。来年度は日本の文化などの地域資源、観光に対するニーズの把握、外国人客向けの滞在プログラムの商品化の検討を行うため、モニターツアーを実施する予定としている。最後に具体的に、クルーズ船が佐世保に入ってきたとき、観光客に対して何が必要かと考えると、観光案内版、というか観光を案内する設備が必要ではないか、ツーリストマップというのか、写真や映像を使った案内が将来必要ではないかと考える。カジノ誘致の問題で国会で盛んに話がされているが、将来はグレードの高いホテルが必要。新聞で報道されていたがリッツカールトンが福岡に進出する。カジノが佐世保にできればそのくらいのホテルは必要になる。また、体験できる観光、例えばカヤック、乗馬など、また実現できないかなと思っているのはハンティングツーリズム。日本人は狩りに興味を示さないが、外国人は意外と狩りが好き。猪を狩ってそのあとの処理をどうするかというのは大きな問題だが、ペイすればよいと思う。その辺の研究も必要。私も1度だけ食べた事があるがジビエというのは結構おいしい。こういう開発も当然できると思う。力をあわせて開発ということで是非ご協力いただきたい。

## 6. 閉会

#### 【事務局】

- 事務局あいさつ